



NPO 法人オーラルヘルスプロモーションクラブ奈良の平成28年度理事会総会に引き続き、学術講演会を開催しました。講師は産業医科大学リハビリテーション医学講座の高島英昭先生で、「嚥下障害 脳卒中患者に“食べる喜びを”ある脳外科医の挑戦」というテーマでご講演いただきました。

嚥下障害の60%は脳卒中が原因で、初発脳卒中患者の入院時には51%に嚥下障害を認めるそうです。そして一般的に「誤嚥性肺炎」と呼ばれるものを、高島先生は、胃内容物の誤嚥による「誤嚥性肺臓炎」と、マイクロアスピレーションによる「誤嚥性肺炎」とに分類されています。

飲食物の誤嚥では窒息の危険性はありますが、誤嚥性肺炎は寝てる間に起こるものです。この肺炎予防のための対策は色々ありますが、やはり口腔ケアが最も重要だということです。

脳卒中患者を、急性期を脱してから接触嚥下訓練を行うコントロール群と、脳卒中発症直後から口腔ケアと早期経口摂取等を行う早期介入群に分けて、コホート研究を実施した結果、早期介入群では、呼吸器感染症が減少、抗菌剤の使用量が減少、在院日数も減少し、脳卒中の予後が改善するという結果が得られたそうです。

従来のリハビリで廃用性嚥下障害の出現を待つことなく、早期に介入することの絶大な効用を示していただきました。

